

事務事業名	環境展開催事業				担当	市民生活部 環境課 ごみ減量係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			増補版施策名			
施策名	3	廃棄物の抑制と適切な処理			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰越（開始年度 昭和59 年度～）		
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	2.清掃費	1.清掃総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	快適な生活環境の保全を目指すとともに、3R運動の推進を図るため、毎年11月23日に消費者まつりと合同で環境展を開催している。 ・環境学習啓発用パネル展示 ・機械式ごみ処理機及びコンポスト容器の展示 ・リサイクル品の展示及び抽選会 ・ごみ分別ゲーム ・フリーマーケット ・古本の販売 ・もおか環境パートナーシップ会議の活動報告及び会員募集							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
30年度実績 ・環境展、フリーマーケットの開催 ・広報紙等への掲載		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
31年度計画 ・平成30年度と同じ		ア 入場者数（環境展）	人	約25,000	約25,000	約24,000	約26,000	約25,000
		イ チラシの発行部数	枚	34,500	34,500	34,500	34,500	34,500
		ウ						
		エ						
		オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・市民		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 人口	人	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・ごみの減量化及び資源化意識の向上を図る。		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 入場者数/人口	%	31.0	31.5	30.2	32.7	31.5
		イ もえるごみの排出量	t	17,630	17,691	17,911	18,110	17,256
		ウ						
		エ						
		オ						
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） ・ごみ排出量の抑制 ・資源化率の向上 ・ごみの減量化及び資源化意識の向上 ・快適な生活環境の保全		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 1人1日当たりのごみ排出量	g	750	753	755	760	750
		イ 資源化率	%	12.8	11.9	11.1	10.1	15.1
		ウ 家庭でごみの分別と減量に取り組んでいる割合	%	89.0	87.3	86.7	88.3	90.0
		エ きれいなまちと感じている市民の割合	%	79.6	75.9	78.1	80.9	83.0
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	81	80	80	80	80
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)		千円	81	80	80	80	80
	人件費	正規職員従事人数	人	15	15	15	15	15
		延べ業務時間	時間	300	300	300	300	300
		人件費計(B)	千円	1,257	1,246	1,245	1,251	1,251
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,338	1,326	1,325	1,331	1,331	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	・快適な生活環境の保全を目指すとともに、3R運動の推進を図るため、昭和59年度から大産業祭の中で開始された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・各種リサイクル法の制定等により、3R運動を通して、循環型社会へ市民意識が高まっている。 ・資源化率については、新聞販売店による独自回収やスーパー等による店頭回収の影響もあり減少傾向となっている。 ・平成30年度デザイン公募により作成したエコバックを展示した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	